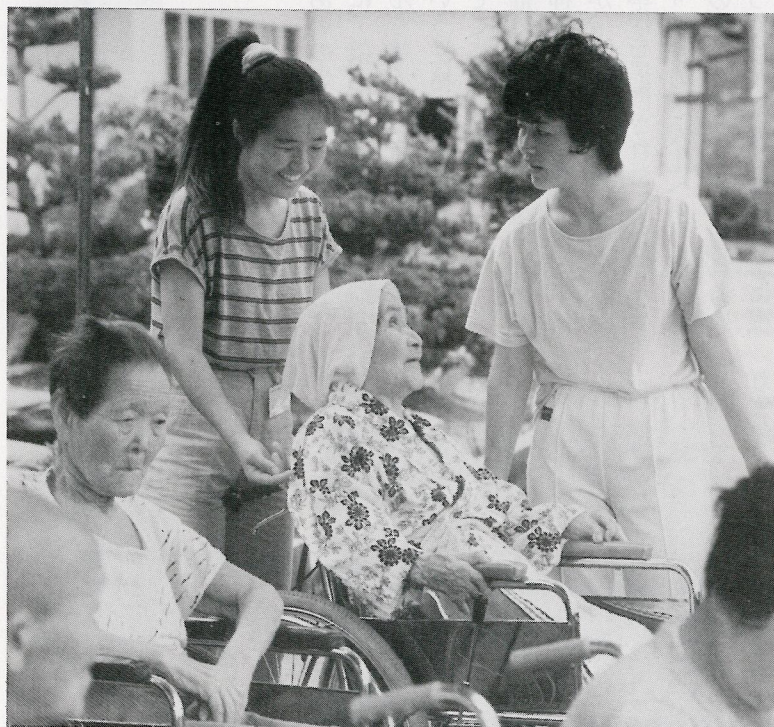


ふれあい

No.18

昭和63年11月1日発行
各務原市社会福祉協議会
鵜沼第三連合支部
支部長 板橋源内
広報委員長 藤井國雄
題字:各務原市長 平野喜八郎氏

鵜沼ふれあいフェスティバルを終わって
社協をご理解いただくために・Q & A
本年度・社協会員募集支部実績報告
鵜沼市民運動会／子どもフェスティバル



(本年度福祉標語募集作品から:最優秀)

— 小学校六年(新鵜沼台)
三川 亜紀

つながり 手から生まれる福祉の輪

養護老人ホームでの体験学習

各務原市では福祉協力校の指定を行って、体験学習など
活発な福祉教育の推進を図っています。

これが社協のマークです。
「社」を図案化したもので
人と人が手を取り合っている
姿がわかります。



老人福祉センター稲田園全景

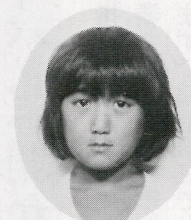
この施設は、老人福祉法により無料または低額な料金
で、市内の老人に対して各種の相談に応ずるとともに、
健康の増進、教養の向上およびレクリエーションのた
めの便宜を総合的に供与している。

本年度
体験作文
優秀作品から
①

最優秀賞

小さなしんせつ

小二 立いわともえさん



小 第三 鵜沼
2年2組 立岩友絵
さん
(鵜沼山崎町)

おかあさんと、かいものに
きました。
「きょうは、なにが いいかな。」
とはしながら、いっぱい かつ
て
「おもたいねえ。」
「おねえちゃんも つれてくれば
よかったね。」
と いいながら、車に つみまし
た。つんでから、きゅうに ある
いて かえりたくなりました。
おかあさんに いうと、
「いいよ。」
と いったので、あるいて かえ
ることに しました。
のんびり あるいていると、に
もつを いっぱいもった おばあ
ちゃんがいきました。さっきもつ
た おもたいにもつを ことを
おもいだしました。
「もって あげようかな。」
と おもっているとおばあさん
が こっちを みました。
わたしは、
「にもつ もちましようか。」
と、いって しまいました。しん
ぞうが、ドキドキ しました。
おばあさんが、
「いいの、ありがとう。」
と 言って くださったので、ほっ
と しました。さいしょの うち
は、かかったけど だんだん
おもたくなりました。でも、お
ばあちゃんが、かわいそうなので
がんばりました。とちゅうで、お
ばあちゃんが
「おもたかったら、もういいよ。」
と、いわれたけど、「ううん。」と
いって、がんばりました。
まがりかどへ きたとき、おば
あちゃんが
「わたしは、こっちの みちだか
らね。ありがとう。」
と、いって くれました。にもつ
を わたしたら、手が「じーん。」
と しました。
でも、心が とっても きもち
よくなりました。これからも、は
ずかしがらずに しんせつを ど
んどん やりたいです。

■人 口
各務原市
129,226人
10,859人
(男5,247人、女5,612人)

■老人人口(65歳以上)
各務原市
10,632人
(人口の8.2%)
688人
(人口の6.5%)

■世 帯 数
各務原市
34,792世帯
3,052世帯

■1世帯人員
各務原市
3.7人
3.6人

■身体障害者
各務原市
2,401人
(人口の1.9%)
158人
(人口の1.5%)

数字で見る
鵜沼第三
(資料提供:
市企画調整課/福祉課)

■1人暮らし老人
各務原市
410人
(老人人口の3.9%)
25人
(老人人口の3.6%)

■寝たきり老人
各務原市
222人
(老人人口の2.1%)
11人
(老人人口の1.6%)

第3回「ふれあいフェスティバル」を終って

鵜沼第三連合支部支部長 板橋源内
フェスティバル実行委員長 成瀬述夫

昭和六十一年度から始められた『ふれあいフェスティバル』は、第三回を数えて、本年も開催されました。「協調・参加・奉仕」をテーマに展開される一大イベントは、七月三十一日、まるで関係者の皆さんの願いが天に届いたのか、好天のなかに盛大に行われ、鵜沼第三連合広報下の市民の皆さん、五千人近い参加を得ました。

前夜祭の「映画の夕べ」、当日午前中のふれあいクロッケーゴルフ大会のオープニングの催しに引き続き、平野市長をはじめ各界の来賓の皆さんのテープカットを皮切りに、献血・リサイクルチャリティ・バザー・こいすくい・くつろぎ・ふれあい・福祉と健康・ボランティア・アトラクション・農産物などの各広場は、一気に盛り上がり、各種団体の役員さんの非常なる熱意のなか、市民の大きな

ふれあいの場になっていきました。まさに、鵜沼第三連合市民運動会と並んで鵜沼第三連合広報下の事業という性格をも見事に演出してみせてくれました。

開催のテーマをフェスティバルの精神として、各広場の担当の皆さんが、それぞれの持ち場で献身的な奉仕を提供されたことは、フェスティバルの定着化へと、市民総参加のイベントとしてのふれあいの場づくりが確実に地域行事に根をおろしました。「毎年、地域のいろいろな方とお会いできるのが楽しみです。福祉の広場に、アトラクションに、バザーにと……よそにない誇れる地域行事にして欲しいですわ。」と。

マンネリ化を指摘する向きもありましたが、技術的問題からも、ノウハウの継承や人的要因による制約からもやむを得ない部分もある



ります。本年も、事前の受付に努力をはかった「献血」、完売を目標に汗を流しての「バザー」、郷土芸能の紹介に力を注いだ「アトラクション」、……等の活躍ぶりを見張り、趣旨のPRと浸透を図るには、多言をろうしてもこれに勝るものはありません。

社協の行事として、連合広報会の行事としてさらなるフェスティバルの今後の成長を願いたい。

さし出す その手から

身体の不自由な人と街で出会ったら、どのように接したらよいのでしょうか？
そのために、今日は、いろいろな障害者の方とともに「福祉」について考えてみましょう。

皆さんは、「障害者」と聞くとどんなことを想像されますか？？かわいそうな人・気の毒な人・私には関係ない人……そんな風に考える人はいませんか？。決してそんなことはないのです。

人は、いつ、どこで、病氣や交通事故などによって障害をもつことになるかもしれないのです。

障害者というのは、特別の人のことではありません。皆さんと同じように一生懸命頑張っているのです。手足や、目、耳が不自由というだけで、普段の生活の中では確かに不便なところはあります。

障害者は、その不便なところを手助けしていただける方を求めています。そうした方がたくさんになればなるほど、その不便や不自由を感じなくなっていくのです。

身体の不自由な人と街で出会ったら、どのように接したらよいのでしょうか？

そのために、今日は、いろいろな障害者の方とともに「福祉」について考えてみましょう。

心をこめた接待に大喜び

ひとり暮らし老人をかこむ会

新鵜沼台の子どもたちも歌のプレゼント

支部では、七月十日に鵜沼東福祉センターで、『ひとり暮らし老人をかこむ会』を開催しました。地域食事ボランティアの手作り料理による昼食会を中心に楽しい一日にしたいと計画した催しに、参加された十四名のお年寄りは、支部役員と共に心のこもった手作り料理を味わいながら、日常生活についてや世間話に話はずみ、またカラオケなどの余興も加わって一日中、くつろいだ雰囲気の中で楽しんでいただきました。



かこむ会での子どもたち

この催しは、昭和五十八年度から開かれています。とかくひとり暮らしでめいりがちになる、六十五歳以上のお年寄りを励まそうと開かれています。対象者二十五名中、出席されたのは十四名（男三名、女十一名）。板橋支部長から「健康で皆さんとお会いできたことを

子どもたちの 子どもたちによる

子どもたちのためのフェスティバル

子どもフェスティバル、開かれる

八月二十一日、好天に恵まれて鵜沼第三小学校のグラウンドにて、「鵜沼第三小学校下子どもフェスティバル」が盛大に行われました。『みんなでたのしくふれあおう』のスローガンのもと、子どもたちの生き生きとした活動ぶりは目を見張らせました。

このフェスティバルは、各務原市・市教育委員会の主催、市少年

喜んでいきます。今日はゆっくりくつろいで下さい。」の挨拶があった早速、昼食会。
心をこめて作られた揚げ物、焼き物、酢の物などが出されたが、七夕の季節にふさわしく、会場の演出は、真ん中に若竹の香りが匂う七夕飾りが、夏の草花にあしらわれ、何気なくほのぼの書かれた短冊にと、ボランティアの皆さんの気持ちがいーんと伝わってきました。季節感あふれる演出に、お年寄り「ありがたいことです。」

と舌鼓。
「ひとり暮らしは、人によって違いがあります。だから、体験した者でしか分かりません。困ったとき、身体が思わしくないときは自分に言い聞かせ、ただ一人で頑張るより他にありません。それだけに、皆さんと会えるというのは嬉しいのです。」

新鵜沼台の子どもたち六名も、飛び入り参加のステージは、歌のプレゼントがあつて、会場を盛り上げてくれました。

指導部会の主管による全市の事業であつて、今年で第九回を数えます。鵜沼第三でも本事業に協賛して行われたわけです。

フェスティバルの目的は、①各少年団でできた力を出し合つて、楽しく遊び、楽しく競技しよう、②各種の楽しい活動をおして、親子、三世代のふれあいを深めよう、③各少年団体の活動を知り、

お互いに仲よくできるようにしよう、です。この目的のために、指導部会傘下の子ども会・スポーツ少年団・ボーイスカウト・児童合唱団・ガールスカウト・子ども劇場・国際ラボの会が集まります。例年の「ふれあいフェスティバル」との同時開催から、本来の名目ともに単独開催となった「子どもフェスティバル」は、デカパン競走などの『ミニ運動会』、紙ヒコーキなどの『創作コーナー』、『かべ新聞コーナー』など、三世代ふれあいの広場もにぎやかに展開されました。

第3回 ふれあいフェスティバル写真集



市長さんらのテープカット風景



鶴三小鼓笛隊による屋外演奏会



ふれあい体験作文等の表彰式



献血奉仕のお母さんたち



祭典に花添えた太鼓（ひびき会）



チャリティ寄付金の贈呈式（10/3）

やさしさは 気軽に

■肢体障害者

足が不自由で歩けない人、障害によって歩く力のない人は車いすを使って歩きます。車いすは足の不自由な人の足の代わりになるのです。けれども、車いすは階段は登れません。坂道やデコボコの所も大変です。そして、こんなことに気を配ってほしいのです。

①何をしたいのか、まず聞いてください。

②どのように手助けして欲しいかを聞いてください。

③自分では無理と思ったときは周囲の人に協力を求めてください。

④車いすの人と会話をしながら手助けしてください。

■聴力障害者

耳の不自由な人は、音や声が聞こえません。しゃべることも不自由な方が多いです。

そのために、電話をかけた時、病院での診察などで特に不便をしています。また、耳からの情報が殆ど入ってこないために不安や不利な立場におかれます。（次頁へ）

応募作品の点数

〈体験作文の部〉

一般 三名

小中学生 一三名

合計 一六名

〈ポスターの部〉

一般 二名

小中学生 一〇名

合計 一二名

〈福祉標語の部〉

一般 二六名

小中学生 四三名

合計 六九名

合計 一九七名

体験作文の部

最優秀 立いわともえ

原 弥生

新海 照弘

優秀

かさはらあき・たむらとしひろ・武藤美春・若山貴洋・田辺麻子・小林清・吉岡より子

佳作

長村ゆは・天野めぐみ・荒川友美子・高須雄大・立林美晴・中村有里・野本裕一郎・武藤ゆう子

佳作

岩見知子・祖父江純子・竹澤匡博・野本裕一郎・町田佳菜子・武藤美春・武藤ゆう子・山口郁江・渡邊恵美・高橋睦志・竹村登美子・広江正幸・古橋豊・星屋とよ・森典子

ふれあい作品入賞者発表

ポスターの部

最優秀 早川 美穂

優秀 みるらようへい・むとうみほ・田中ゆきえ・新海照弘・広江正幸

佳作 市原聡子・内海絵里子・近藤靖浩・戸上美奈子・夏目佳純・さいとうあきひろ

福祉標語の部

最優秀 三川 亜紀

優秀 林さとし・加藤正純

佳作 岩見知子・祖父江純子・竹澤匡博・野本裕一郎・町田佳菜子・武藤美春・武藤ゆう子・山口郁江・渡邊恵美・高橋睦志・竹村登美子・広江正幸・古橋豊・星屋とよ・森典子

体験作文の部

最優秀 立いわともえ

原 弥生

新海 照弘

優秀

かさはらあき・たむらとしひろ・武藤美春・若山貴洋・田辺麻子・小林清・吉岡より子

佳作

長村ゆは・天野めぐみ・荒川友美子・高須雄大・立林美晴・中村有里・野本裕一郎・武藤ゆう子

佳作

岩見知子・祖父江純子・竹澤匡博・野本裕一郎・町田佳菜子・武藤美春・武藤ゆう子・山口郁江・渡邊恵美・高橋睦志・竹村登美子・広江正幸・古橋豊・星屋とよ・森典子

鶴三連合市民運動会

支部社協協賛の鶴沼第三連合市民運動会（鶴三連合広報会・鶴三連合体育振興会主催）は、去る十月二日（日）午前八時三十分から鶴三小グラウンドで、盛大に催されました。

この日は、心配された天気もよく、延べ二六〇〇名の出場者が、応援席にあふれる市民の声援にこたえ、元気いっぱい競技や演技を展開するなど、盛況のうちに無事終了し、午後三時すぎ、意義ある大会を閉じました。

各スポーツ少年団を先頭に堂々の入場行進、板橋連合会長の挨拶、来賓の祝辞と続く開会式は、力強い東町の板津政文さんの選手宣誓によって、大会の幕を切って落とされた。市民運動会ならではの見どころは、何といっても地区対抗種目、選手も応援席も一つになつてハッスルするところです。

特にファイナレの地区対抗リレーは文字通り、追いつ追われつ白熱したレースになり、花形競技にふさわしく力が入りました。



種目も多種多様で、老若男女とも力を合わせて頑張りました。

幼児は菓子取りに、小学生は力いっぱい走り抜き、広報会の方々は恥じらいながらの風船割りやパン食い、ラムネ早飲みといった競技や、老人会は平常とは一味違ったクロッケーリレー、まさに力くらべの綱ひき……など。

総合順位は、次の通り。

〈男子の部〉 〈女子の部〉
優勝 東 町 東 町
準優勝 山 崎 新鶴沼台
第三位 宝積寺 宝積寺

日々の暮らしと社協活動

社協を「理解」 いただくために

― わかりやすいQ&A① ―

本号から三回に分けて、「日々の暮らしと社協活動」ということで、社協がめざす参加・奉仕・創造を軸に、社協をわかりやすく理解していただくために問答形式で説明していきます。

Q 社協は、何をめざしているのですか？（社協の性格と理念）

A 社協が戦後に誕生してから三十年余りになります。この間、社協が大切にしてきたことは、「住民参加による地域福祉の推進」ということです。

私たち住民が家庭や地域の中で困っている福祉問題を持ち寄り、話し合いを進めて、問題の解決の方法を明らかにすることです。そして、決めたことをみんなで実行し、子どもや老人、障害者など弱い立場の人々を助け、みんなが地域の中で、

安心して生活ができるよう福祉社会を築くことです。

Q 社協は、これまで何をやってきたのですか？

A 社協三十年余りの歴史の中で、いろいろなことを実行してきましたが、そのいくつかを紹介すると、第一に、家庭や地域の中で起っている福祉問題を調査し、社会啓蒙を行い、問題を社会化することによって、行政や国民の責任や役割を啓発してきました。例えば、今日非常に大きな社会問題となっている「寝たきり老人の介護問題」をいち早く取り上げたのは社協です。昭和五十二年に、全国の社協と民生委員が一斉にこの調査を実施し、マスコミを通して介護者のご苦労の様子と福祉サービス

の必要性を訴えました。その他、各地でいろいろな調査が取り組まれました。

第二は、社協は、ただ問題を訴えるだけではありません。調査研究に基づき、寝たきり老人を抱える家族に対して、入浴サービスや訪問看護、食事サービス、

生活相談など具体的な援助を行ってきました。社協は、行政サービスに先がけ、先駆的、開拓的な福祉事業を行ってきました。

第三は、単に行政へ働きかけるだけでなく、住民の皆さんにも協力を呼びかけ、それぞれの人が合ったボランティア活動を進めてきました。その結果、多くの市町村でボランティア活動が活発になり、福祉の輪が広がってきました。

Q 福祉の仕事は、市役所（行政）がやればいいと思つたのですか？

A おっしゃる通りです。憲法にもそのように定めています。しかし、住民が福祉について無関心であつてよいことはありません。私たちの生活は、どんなに変化しています。生活様式も変わり、価値観や意識も変わってきています。そして、その中から新しい生活問題が起つていきます。少し前までは、老人問題も今日のように大きな問題ではありませんでした。現在、当面していなくても、交通事故や病

昭和六十三年 度 社協会員募集実績報告

本年度、社会福祉協議会の会員募集を八月にお願いしましたところ、別表「鶴三連合支部実績および支部別実績表」にある通り、多数の方々のご賛同をいただきました。ひとえに皆様方の社会福祉に対するご理解とご協力の賜として、厚く御礼申し上げます。

この会費は、地域福祉、在宅福祉活動を始めとする各種事業の活動資金として会員皆様方のご意志に沿い、民間社会福祉活動に反映させていく所存であります。

各務原市社会福祉協議会

鶴三支部実績および支部別実績表（法人等の賛助会員を除く）

地区および支部社協名	世帯数	一般会員数	一般会員実績額	特別会員数	特別会員実績額	会員数合計	会費実績合計	加入率
東 町	579	361	109,300	19	19,000	380	128,300	65.6
鶴 沼 台	933	790	239,900	62	62,000	852	301,900	91.3
新 鶴 沼 台	878	686	207,000	45	46,000	731	253,000	83.3
山 崎	427	357	108,500	11	13,000	368	121,500	86.2
宝 積 寺	152	143	42,900	9	9,000	152	51,900	100.0
貞 照 寺	83	66	19,800	2	2,000	68	21,800	81.9
支部合計	3,052	2,403	727,400	148	151,000	2,551	878,400	83.6
那 加 一	2,541	2,135	643,200	167	173,000	2,302	816,200	90.6
那加二 東部	2,047	1,656	509,200	122	124,500	1,778	633,700	86.9
雄 飛 ケ 丘	1,192	1,018	308,200	71	77,000	1,089	385,200	91.4
那 加 三	1,780	1,409	436,100	230	232,000	1,639	668,100	92.1
尾 崎	2,348	2,077	626,100	78	79,000	2,155	705,100	91.8
更 木	1,282	956	288,800	61	61,000	1,017	349,800	79.3
中 屋	1,248	1,132	345,200	76	76,000	1,208	421,200	96.8
前 宮	900	862	264,800	37	38,200	899	303,000	99.9
鶴沼第一連合	2,136	1,742	575,200	122	123,000	1,864	698,200	87.3
鶴沼第二連合	2,403	2,112	645,200	68	78,600	2,180	723,800	90.7
陵 南 連合	1,594	1,467	479,100	56	56,000	1,523	535,100	95.5
各 務 連合	1,756	1,510	459,200	124	126,000	1,634	585,200	93.1
緑 苑 連合	2,148	2,062	618,800	8	8,000	2,070	626,800	96.4
八木山連合	1,554	1,379	415,000	13	14,300	1,392	429,300	89.6
蘇 原 北 部	3,485	3,139	948,800	204	209,300	3,343	1,158,100	95.9
蘇 原 南 部	3,326	2,544	790,800	390	394,300	2,934	1,185,100	88.2
合 計	34,792	29,603	9,081,100	1,975	2,021,200	31,578	11,102,300	90.8

※ 世帯数は、広報会加入世帯数（63年8月1日現在）

※ 市社協に納めた鶴三支部会費の四〇％が支部に交付されます。交付金／前年実績年三一八〇〇〇円、本年度三五一〇〇〇円（決定）

やさしさは 気軽にさし

歩きます。けれども歩道に物が置いてあったり、穴や溝があったりで一人歩きは大変です。目の不自由な人が立止まって困っているようなときは、「どうなされたか」と、まず勇気をもって声をかけてください。

「福祉についていろいろなことを皆さんとともに考えてみました。少しは分かっていたのだと思います。今日をきっかけに出来ることから勇気をもって実行してください。

どんな小さなことでもいいのですから。」

そして、長い人生において「福祉の心」をスローッと持ち続けて欲しいのです。

あなたのやさしい一言と勇気あるあなたの手助けを障害者の方々は待っています。

十二月九日は「障害者の日」
十二月九日～十二月十五日は
身体障害者福祉週間

出す その手から つづき

- 耳の不自由な人との会話の方法は、次の五つあります。
- ① 口話法 相手の唇の動きで言葉を読み取り、自らも声を出して会話する方法。
 - ② 手話法 両手や顔の表情、身体の動作等で会話する方法。
 - ③ 指文字 片手の指で、五十音を記号化したもの。
 - ④ 筆 談 紙に文字を書いて会話をします。
 - ⑤ 空文字 空間に字を書いて行う会話

この中で、一番多く使われているのが口話法と手話法の併用です。

視力障害者

目が不自由な人は、目で文字を読むことができません。そのため、文字の代わりに点字を使って読みます。点字は、六個の点による組合せからなっていて、ぶつぶつとした点に指先を触れて文字を読んでいくのです。

また、目の不自由な人が外出するときは、白い杖を突いたり、盲導犬と一緒に